

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	米英コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	自国の歴史や文化についての深い知識は言うに及ばず、アメリカ・イギリスをはじめとする英語圏の文化・社会についての広範な知識と深い理解に裏付けられた、優れたコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-------------------------	--

<p>【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会学系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】 米英コースでは、英語運用の実際的な訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとして活用するために不可欠なコンテキストとしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を図る。</p>	<p>英語圏の文化・社会の存在様態についての高度な知識を習得している。</p> <p>グローバルな視点から俯瞰的に英語圏の文化・社会を考察する能力を獲得している。</p> <p>グローバルかつ俯瞰的な視点から自国の文化を見つめ、それを考察する能力を修得している。</p> <p>英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築きながら、それを表現する能力を有している。</p> <p>自らの論理的な思考を、正確かつ高度な英語を使って表現する能力を有している。</p>
--	---

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
16001	国際学入門	国際学の概要・基礎的概念を把握する	1	*		○	◎	
16002	国際政治史A	近代東アジア地域の国際関係の展開過程を理解する。	2	*		△	△	
16003	国際政治史B	暗黙的歴史を極力排除する。歴史過程は一定の合理性と法則性の元に進捗することを学ぶ。ヨーロッパ理解の基礎を構築する。	2		*			
16004	国際関係論	主として戦後の国際政治の展開と現状を理解する	2		*	◎	○	
16004	国際関係論	国際政治全体についての理論を検討する。次いで、このテーマ、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこでの内政、国際関係を理解する。	2		*		○	
16005	国際コミュニケーション論	主としてマス・メディアに構成された自分たちの知識の源泉を今一度問い直す。我々の価値観なども日本の持つイメージによって形成されていることを学ぶ。国際人として、自国の枠組みにのみならず、国際的な基準で、公正に、公平にことごとくを判断する力を身につけることを目標とする。	2		*	◎	◎	
16006	国際経済学	国際経済学の基本的モデルを修得する。この理解を通して、具体的な貿易利益、貿易政策の経済効果、国際的分業パターン、国際間労働・資本移動などの個々の事例を理解する。	2		*		◎	
16007	世界システム論	1. 政治・経済・文化の一体化した現実を、それぞれの側面に解きほぐしながら、また全体としてとらえ、分析する能力を身に付ける。 2. 世界システムが個々の国や社会のあり方を規定する仕組みを分析する能力を身に付ける。	2		*		◎	○
16008	国際貿易論	国際経済・貿易の基礎的知識を身に付ける	2		*	○	○	
16008	国際貿易論	グローバル化の現状の下で、新たな国家間の相互依存関係を学ぶ。日常生活における国際貿易に関するさまざまな問題を適正に理解し、判断する力を修得する。	2		*		△	
16009	国際協力論	国際協力・対外援助の必要性と実態を理解する	2		*		△	
16010	異文化理解	国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する。	2		*		◎	◎
16037	国際経済学概論	グローバル化が進む現在、日本と世界がどのようにつながっているのか、また国際経済関係を考えるためにはどのような視点が必要なのか、その基礎的な知識や理論を学ぶ。	2		*		△	
16011	日本文化	戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身に付ける	1		*		○	
16012	日本の思想と宗教	神と仏との関係を外国人に説明できるようになる	2		*		○	
16013	日本史概説	日本の近世史・近現代史に関する理解を深める	2		*		◎	
16014	日本経済論	日本資本主義の史的展開を通じて、日本経済の今日的課題を分析・説明する視角を身に付ける。	2		*		○	
16015	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力をつける。	2		*		○	
16016	日本政治・外交史	幕末維新期～昭和戦前期の日本政治・外交の展開過程を理解する。	2		*	△	△	○
16017	日本政治・外交論	・英語のリーディングやリスニングを上達させる。・政治学及び国際関係の専門用語を紹介する。・国際的な観点から、日本の政治・外交史を理解する。	2		*	△	△	△
16018	日本の言語と文化	日本人の言語行動を支配する社会文化的なルールについての意識を獲得するとともに、他の国々の言語と文化を比較できるようにする。	2		*		△	○
16019	日本民俗文化論	日本は長い歴史の中で海外の様々な国の文化と出会いながら、日本独自の伝統文化を築き上げてきたことを、主に明治時代以降の日米間の関係を中心に理解する。	2		*		△	
16020	日本語学概論	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識を音声、語彙、文法、文字表記などの分野ごとに身につけて、日本語への理解と関心を深めることができる。	2		*		△	
16021	日本語教育学基礎	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。 ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。	2		*	△	△	◎
16022	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2		*		◎	
16023	日本の古典文学	日本の古典文学に関する基礎的な知識を獲得すると共に、その受容の歴史について理解を深める	2		*		○	
16024	日本の近現代文学	語りや視点を意識して文学作品を読み解く意識付けができるようになる	2		*		○	

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	米英コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化とのしなやかな共生を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	自国の歴史や文化についての深い知識は言うに及ばず、アメリカ・イギリスをはじめとする英語圏の文化・社会についての広範な知識と深い理解に裏付けられた、優れたコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材育成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-------------------------	--

<p>【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】 米英コースでは、英語運用の実際的な訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとして活用するために不可欠なコンテキストとしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を狙う。</p>	<p>英語圏の文化・社会の存在様態についての高度な知識を習得している。</p> <p>グローバルな視点から俯瞰的に英語圏の文化・社会を考察する能力を習得している。</p> <p>グローバルかつ俯瞰的な視点から自国の文化を見つめ、それを考察する能力を修得している。</p> <p>英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築く能力を有している。</p> <p>自らの論理的な思考を、正確かつ高度な英語を使って表現する能力を有している。</p>
---	--

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
16038	日本文化体験A	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2	*				△
16039	日本文化体験B	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2		*			△
16025	翻訳理論 I	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2	*				◎
16026	翻訳理論 II	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2		*			◎
16027	英語パブリックスピーキング IA	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		△	△	◎
16028	英語パブリックスピーキング IB	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		△	△	◎
16029	英語パブリックスピーキング IIA	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		△	△	◎
16030	英語パブリックスピーキング IIB	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		△	△	◎
16031	英語表現法 IA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*			○	◎
16031	英語表現法 IA	1.To improve reading, speaking, listening and writing in English. 2.To learn to participate actively in an all-English environment. 3.To develop a clear understanding of various international perspectives and varying Japanese perspectives related to Japan's political history.	1~2	*		△	△	◎
16032	英語表現法 IB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*			○	◎
16033	英語表現法 IIA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*			○	◎
16034	英語表現法 IIB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*			○	◎
16035	英語コミュニケーション I	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*			○	◎
16036	英語コミュニケーション II	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*			○	◎
51301	アメリカ研究A	アメリカの歴史、社会、文化の中から主要なファクターを形成すると思われるテーマを取り上げ、関連するテキストを輪読しながら、学生みずからが問題提起をおこない、その答えを模索する。	2~3		H22		○	◎
51302	アメリカ研究B	アメリカ文化の潜在的な構造に着目し、具体的な根拠をもって独自の解釈を提示する能力を養う。	2~3		H22		○	◎
51303	イギリス研究	国際政治、イギリスの現在の姿を知る視野を身につけることができる。それにより、現在の世界を取り巻く問題の側面を理解することができる。イギリスの歩み自身を理解することで、外交の歴史を今日の問題と絡めつつ再照射し、様々なアクターと関与したイギリスを多角的に理解することで、後の研究を行う視座を身につける。	2~3		H22		◎	◎
51304	アメリカ文化関係論	アメリカの文化を構成する諸要素の中から経系を形成すると思われるテーマを取り上げ、関連するテキストを輪読しながら、多様なアメリカ文化の一面に光を当てる。	2~3		H22		◎	◎
51305	アメリカ地域文化論	通史を扱う講義を通じ、アメリカ文学・文化についての基礎的な知識を習得することができる。	2~3		H22		◎	◎
51306	イギリス文化関係論	イギリス人のものの考え方の基盤をなす、哲学的、思想的、美学的側面に関する理解が深まる。	2~3		H22		◎	◎
51307	イギリス地域文化論	19世紀から現代にかけてのイギリス文学史を理解することで、英語圏文化の理解に必要な知識を身につける。	2~3		H22		○	◎
51308	米英言語思想論	英語論文の精読を通して、現象について深く観察し、理解を深めることで、言語に対する深い洞察力・分析力を身につけると共に、自身の英語力向上に生かせるようにする。	2~3		H22		○	◎
51340	北米文化人類学演習	北米諸地域における諸現象を文化人類学的な視点から理解できるようになる。また、日本における諸現象との比較文化人類学的な視点も身につく。	2~4		H22		◎	◎
51343	異文化言語管理演習 I	異文化インターアクションにおける諸問題を論理的に分析し、異文化適応スキルを身につける。	2~4		H22		△	◎
51344	異文化言語管理演習 II	言語管理理論および社会文化理論を用いた異文化接触場面特有の現象を考察し、異文化インターアクション能力を養う。	2~4		H22		△	◎

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	米英コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	自国の歴史や文化についての深い知識は言うに及ばず、アメリカ・イギリスをはじめとする英語圏の文化・社会についての広範な知識と深い理解に裏付けられた、優れたコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材育成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-------------------------	--

<p>【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会学系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。</p> <p>【コースのCP】 米英コースでは、英語運用の実際の訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとして活用するために不可欠なコンテクストとしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を狙う。</p>	<p>英語圏の文化・社会の存在様態についての高度な知識を習得している。</p> <p>グローバルな視点から俯瞰的に英語圏の文化・社会を考察する能力を習得している。</p> <p>グローバルかつ俯瞰的な視点から自国の文化を見つめ、それを考察する能力を修得している。</p> <p>英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築く能力を有している。</p> <p>自らの論理的な思考を、正確かつ高度な英語を使って表現する能力を有している。</p>
---	--

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
51309	米英メディア文化論	アメリカ文化表象の深層にある集団的思考の方向性を具体的に考察し、論理的に提示する能力を養う。	3~4	H22		○	◎	
51310	米英環境思想論	環境思想の主要な特徴と変遷を理解し、重要なコンセプトを用いて環境をめぐる問題をクリティカルに考えることができるようになる。	3~4		H22	○	○	△
51311	米英芸術文化論	・米英の芸術文化への理解を深め、文化表象を読み解く方法を習得する。	3~4		H22	◎	○	○
51312	アメリカ政治・外交論	・英語のリーディングやリスニングを上達させる。 ・政治学及び国際関係の専門用語を紹介する。 ・国際的な観点から、アメリカの政治・外交史を理解する。	3~4		H22	○	◎	○
51313	アメリカ経済論	アメリカ経済の構造や世界的役割を把握する	3~4		H22		◎	
51314	北米文化論	英語圏文学・文化の歴史的成立過程をジェンダー・階級・人種の観点から考察し、現代に通ずる課題を読み解いていく。	3~4		H22	◎	○	○
51315	英語圏文化論	(a) 英語圏出身の人と効果的にコミュニケーションをはかるために必要な思考と行動様式に関わる広範囲の能力を習得すること。(b) 職場で異文化間コミュニケーションを効果的に行うための必要最低限の英語力を習得すること。	3~4		H22	○	○	△
51316	イギリス政治・外交論	戦後国際政治史を詳細に検討する視野を身につける。イギリス政治・外交論の授業を通して、イギリス外交を研究する意義を理解することができる。それにより、日本とイギリスの比較、日米関係と英米関係の比較、日本/アジアとイギリス/ヨーロッパの比較の視点を養うことを可能にする。	3~4		H22	◎	◎	○
51341	米英文学演習	・国民性の発露たる文学作品を通して、米英を中心とした英語圏の人々の世界観、人間観が理解できる。 ・文学作品を鑑賞する際の、基本的な作法が身につく。	3~4		H22	◎	◎	○
51342	同時通訳入門	同時通訳をおこなう際に必要とされる、さまざまな能力の基礎的な力が習得できる。	2~4		H22	△		◎
51317	米英研究特論A	イギリスの豊かな文化を築いている、さまざまな文化的事象に関する基本的な知識が習得できる。	2~4		H22	◎	○	○
51318	米英研究特論B	アメリカの豊かな文化を築いている、さまざまな文化的事象に関する基本的な知識が習得できる。	2~4		H22	◎	○	○
51319	アカデミック・ライティング I A	日本語と英語の書き方の違いに留意させ、論理的文章構成法に基づいたエッセイライティングを身につけさせる。オーストラリアの大学生とのメールでの交流を通し異文化学術ネットワークの形成を促進する。	3~4		H22	○	○	◎
51320	アカデミック・ライティング I B	留学先でのレポート提出に十分対応できるようなアカデミック・ライティングに関する諸技能が身につく。	3~4		H22	△	○	◎
51321	アカデミック・ライティング II A	客観的な資料を元に、自分の意見を英語で論理的に述べることができる。	3~4		H22		○	◎
51322	アカデミック・ライティング II B	学術的慣用表現を用いた文章構成法、引用法、パラフレーズ、要約の仕方、帰納的書き方などを学び、批判的分析力を養い英語論文の書き方を身につける。また、オーストラリアの大学生とのメールによる異文化交流で得た情報を活用し論述課題を完成させることで、英語での情報収集能力を習得する。	3~4		H22	○	○	◎
51323	英語グローバルトピック I A	英訳された現代日本文学を読み、日本文学・文化の世界的な受容について、留学生と英語で論じる力を習得する。	3~4		H22	○	◎	○
51324	英語グローバルトピック I B	論理的に書かれた英語文献を理解し、抽象的な文章であっても的確に理解できるようになる。	3~4		H22			◎
51325	英語グローバルトピック II A	英語の読みを正確で緻密なものとするともに、パラグラフリーディングの力を身につける。併せて、世界の現状について理解し、山積する諸課題への対応策を模索する。	3~4		H22	○	◎	○
51326	英語グローバルトピック II B	イギリスを中心としたヨーロッパにおける思想史や哲学を学ぶことによって、物事を考える基礎が固められるとともに、グローバル諸問題を解決するための糸口を見つけ出すことができる。	3~4		H22	◎	◎	△
51327	国際英語コミュニケーション I A	日本の歴史・文化・社会を英語で説明する	3~4		H22		○	◎
51328	国際英語コミュニケーション I B	国際試験に対応できる英語力を身につける	3~4		H22		○	○
51329	国際英語コミュニケーション II A	職場で、英語を使ってコミュニケーションを効果的に行うために必要な英語力を習得すること。	3~4		H22		△	○
51330	国際英語コミュニケーション II B	国際試験に対応できる英語力を身につける	3~4		H22	○	○	○
51331	米英研究演習A	留学先でどのようにして卒論のテーマを見つけ、資料を収集し、また、論を組み立ててゆくか、卒論作成にあたっての基本について理解する。	3	H22	H22	○	○	○
51332	米英研究演習B	テーマの選び方、資料の集め方、集めた資料の利用の仕方、論の組み立て方、英文の書き方、論文の体裁の整え方についての一連の作業を習得できる。	4			○	○	○

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	米英コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)				
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。		自国の歴史や文化についての深い知識は言うに及ばず、アメリカ・イギリスをはじめとする英語圏の文化・社会についての広範な知識と深い理解に裏付けられた、優れたコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。				
学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)				
<p>【学類のCP】</p> 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 <p>【コースのCP】</p> 米英コースでは、英語運用の実際的な訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとして活用するために不可欠なコンテキストとしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を狙う。		英語圏の文化・社会の存在様態についての高度な知識を習得している。	グローバルな視点から俯瞰的に英語圏の文化・社会を考察する能力を獲得している。	グローバルな視点から自国の文化を見つめ、それを考察する能力を修得している。	英語で書かれた文献を正確に読解し、確実な情報基盤を築く能力を有している。	自らの論理的な思考を、正確かつ高度な英語を使って表現する能力を有している。
コース(専攻)のカリキュラム						
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	
36001	インターンシップ	・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での業務内容を理解できる ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での国際的な業務についても理解できる ・自らに適合した将来の進路を選択する能力を向上させる	3	H22		
36002	卒業論文	自分で問題を提起する能力、それのみならず答えを導き出す能力、それを論理的に英語で説明する能力が習得できる。	4			◎
別1-定める	異文化体験実習Ⅰ(海外)	海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーション力を習得し、さまざまな文化に親しむ。	1~4			◎
36151	異文化体験実習Ⅰ(ドイツ)	ドイツでのサマーコースに参加してドイツ語のコミュニケーション力をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。	2~4			△
36152	異文化体験実習Ⅰ(フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランスでの生活体験や課題の達成を通して、フランスの文化に親しむ。	2~4			○
36153	異文化体験実習Ⅰ(中国)	中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4			○
36154	異文化体験実習Ⅰ(中国)	中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4			○
36155	異文化体験実習Ⅰ(イギリス)	たんなる語学研修に終わらない、イギリスに関する幅広い知識が習得でき、また、イギリスの人や風土とじかに接することができる。	1~4			○
36201	異文化体験実習Ⅱ(海外)	異文化体験実習Ⅰで学んだ語学の習得	1~4			◎
36202	異文化体験実習Ⅱ(ドイツ)	異文化体験実習Ⅰで学んだドイツ語の習得	2~4			△
36203	異文化体験実習Ⅱ(フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランス語検定試験で適切な級の認定を受ける。	2~4			○
36204	異文化体験実習Ⅱ(中国)	中国語検定試験二級合格を目指す。	2~4			○
36205	異文化体験実習Ⅱ(イギリス)	ケンブリッジ語学研修を通して、さらなる英語の力を身に付けるとともに、イギリスの語文化、歴史にじかに触れることで、英国の層の厚さを理解する。	1~4			◎